

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語/文学国語】

1. 対象

1年次で言語文化、2年次で論理国語を履修する。授業以外の場で、ほとんど読書経験がないが、比較的文学に対する興味関心は強いと思われる。読みの技法や概念へのアプローチは、4月から実践中である。

2. 単元名「ものの見方、感じ方、考え方を深める」（全4時間）

教材名「月やあらぬ（伊勢物語）」

3. 単元の目標

知識及び技能	文学的な文章における文体の特徴な修辞などの表現の技法について、体系的に理解している。
思考力、判断力、表現力等	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。【読むこと】
学びに向かう力、人間性等	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4. 言語活動

作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。

5. 本時の目標 省略

6. 授業展開【本時・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

「孤独」のなかで幸福でいられるのだろうか？

芸術作品に現れる「孤独」の概念について検証をして、比較し、まとめる。

考えるための材料

①本文「月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして」

②A Room in the Artist's Home in Strandgade, Copenhagen, with the Artist's Wife
ヴィルヘルム・ハンマースホイ 1901年（写真略）

③Nighthawks エドワード・ホッパー1942年（写真略）

④Rachmaninoff: Vocalise, Op. 34 No. 14

※思考ツール「共感マップ」を使用しながら検証する。

※模造紙にメモをし、まとめる。（授業見学のため、今回は模造紙を使用する。）

※本授業で「孤独」を扱うにあたり、「公共」の授業内で「孤独」についての学習を行っている。

想定される活動

①「わが身ひとつはもとの身にして」のところから、生徒は恋人が去ってしまった後、取り残された「わが身」について、検討を行う。

②ハンマースホイのこの絵は、写真のように美しく、見るものをその場に引き込む力があるだろう。生徒たちはこの絵の中に没入し、明るく美しさに内包された、どこか影や孤独、不安を想起するだろう。

③エドワード・ホッパー「Nighthawks」は、登場人物が4人おり、それぞれに孤独を読み取ることが可能である。生徒たちは、夜と店内の明るさや人物の表情などを手掛かりに、都会で生きる人物が抱える孤独をイメージするだろう。

④ラフマニノフのヴォカリーズは、切なく甘く、そして憂いのある美しい旋律で知られる名曲とされている。ラフマニノフの背景を知らなくても、おそらく生徒たちは、その旋律から、憂いや悲哀のようなものを感じることができるだろう。その中身が何なのかを生徒たち自らの視点で考えさせたい。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

①について、共感マップを使用し、「孤独」の種類について読み取る。
グループごとに発表。

②③④をグループごとに解釈しつつ、文学（アート）における「孤独」について考察する。
孤独について、自分の体験のなかから探し、例示と解釈を行う。

②③④の作品解釈を行いつつ、1000字程度で「孤独」の普遍性について評論を行う。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- A 作品での「孤独」には、物理的、精神的孤独の2つが存在する。前者は、他者から切り離されている状態、後者は、他人と進んで関わるができなかったり、他人との深いつながりがなく、心の中での孤立感を感じる状態。
- B 孤独とは自分に対して影響を与えてくれる人がいない状態。有機的な関わり合いのない状態。
- C インスタなどのSNSでのつながりは孤独を解消するだろうか。
- D 過去と現在のギャップ。幸福との落差によるもの。